



わた なべ なつ み  
**渡辺 夏美**さん

国東高等学校 女子バレーボール部

渡辺 夏美さん（3年生）は、小学校3年生の時に友達に誘われてバレーボールを始めました。安岐中学校で県大会に出場したことがきっかけで、強豪校でバレーボールがしたいと考え、国東高等学校に進学しました。バレーボール部は、県内各地から選手が入部しており、市内の中学校から入部する人は少数でした。また、身長が160cmと小柄なことも入部当初は不安な部分でした。しかし、上手な選手と練習する中で自分を成長させたいという気持ちと、持ち前の動きの速さとジャンプ力で今ではチームのムードメーカーとして活躍しています。

夏美さんは、「バレーボール部の仲間と過ごした3年間は、私の宝物となりました。もっと市内の中学生が、国東高校でバレーボールがしたいと思ってもらえるように、全国大会に出場する姿を見せたいです。そのためにも11月の最後の大会で東九州龍谷高校をチームワークで倒したいです」と話していました。



なが い しん や  
**永井 信也**さん

でんでん館ひまわり(安岐町下原)

永井 信也さんは、県外の企業に勤めていましたが、県内の後継者のいる家電専門店が集まる「でんでん館」というグループに加盟するため、平成12年に帰郷しました。その後、商品の共同仕入れで値段を安くすることや販売エリアを市内一円に広げること、またケーブルテレビの宅内工事やリフォームなどの新規事業に取り組み、事業を拡大していきました。

信也さんは、「うちのような家電専門店は、蛍光灯の交換やテレビのリモコンの電池交換など困りごとを気軽に言っていただけることが非常に嬉しいです。また、妻もパソコン操作の困りごとを解消するため、パソコン教室を開いています。小さな困りごとにも親切で丁寧な対応を心がけ、いつまでも地域に愛されるお店を目指していきます」と話していました。



後列左から2番目が父 永井正明さん、右隣が信也さん、前列左 妻の久美子さん



た わら ゆう じ  
**田原 雄二**さん

萱島酒造有限会社(国東町網井)

田原 雄二さんは、24歳の時に萱島酒造有限会社に入社し、以来21年間、醸造部で酒造りに励んでいます。3年前から副杜氏として、大吟醸の醸造を任せられ、西の関らしい味わい深い旨口の大吟醸を追求してきました。その結果、熊本国税局管内酒類鑑評会で昨年から2年連続で1位を獲得し、併せて今年は11年ぶりに全国新酒鑑評会でも入賞することができました。また、25年前から地元少年野球チームの指導者を続けています。その縁で平成28年に中学生女子野球チームのコーチとして日本一を経験しました。

雄二さんは、「酒造りも少年野球の指導も、過程が大事だと思っています。酒造りでは、西の関の独自のジャンルである「九州型味大吟醸」を醸し、大吟醸をもっと多くの人に飲んでもらえるお酒にしていきたい。少年野球では、野球の技術よりも、努力することの大事さなど心の成長の手助けをしていきたい」と話していました。



各分野で光を放っている 人にスポットをあてる

# 国東の輝きひと

Vol.7



まつ ばら まさ ゆき  
**松原 雅之**さん

松原ファーム(安岐町中園)

松原 雅之さんは、東京都で会社勤めをしていましたが、27歳の時に父千年さんの願いもあり、後を継ぐため帰郷しました。それから、大分県立農業大学校で水稲栽培を学び、さらに大規模経営を学ぶため、アメリカに約2年間海外研修に行きました。そして、ミニトマト中心の経営から、水稲と転作作物の麦や大豆を組み合わせた大規模経営に転換していきました。

今では、父と一緒に始めた頃の2倍の20ヘクタールまで栽培面積が増えました。今年からは、年間作業量を平準化するため、キャベツ栽培にも取り組んでいます。

雅之さんは、「私は、地域に必要なとされる農業をするのが目標です。その目標を実現するためには、しっかりとしたモノを作るという大前提がありますが、農業で雇用を生み出す必要があると考えています。年間作業量の平準化を実現し、従業員を雇える環境を整え、法人化を目指していきます」と力強く話していました。



左から妻の松原真友美さん、雅之さん、父の千年さん、母の慶子さん